

一般女性を対象とした 婦人科疾患・ヘルスケアに関する 認知実態調査 結果

バイエル薬品株式会社
2016年2月

一般女性を対象とした 「婦人科疾患・ヘルスケアに関する 認知実態調査」概要

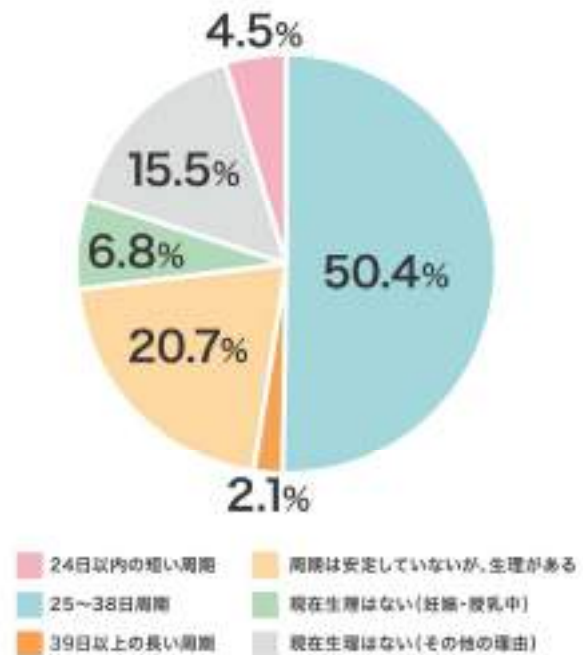
調査概要						
目的	婦人科疾患に関する認知、理解度、具体的なエピソードなどから、一般女性の現状を把握する。					
対象	全国の15-59歳の女性 516人（中学生を除く）					
対象の割付	高校生	高校生以外の 10代	20代	30代	40代	50代
	52	52	103	103	103	103
方法	インターネットによるアンケート調査					
調査期間	2015年 12月 2～4日					

回答者のプロフィール (サンプル数 516)

未既婚



月経周期の安定



3

一般女性を対象とした婦人科疾患・ヘルスケアに関する認知実態調査 (バイエル薬品株式会社 2015年12月)

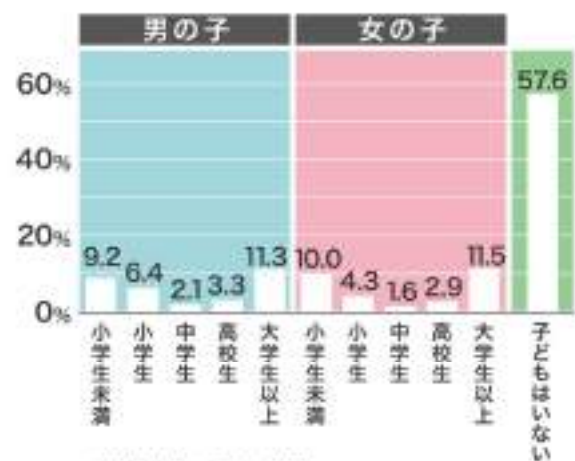
回答者のプロフィール (サンプル数 512)

出産経験の有無



※ 16歳以上ベース(n=512)

子供の有無・学齢



※ 16歳以上ベース(n=512)

4

一般女性を対象とした婦人科疾患・ヘルスケアに関する認知実態調査 (バイエル薬品株式会社 2015年12月)

一般女性を対象とした 婦人科疾患・ヘルスケアに関する 認知実態調査 結果

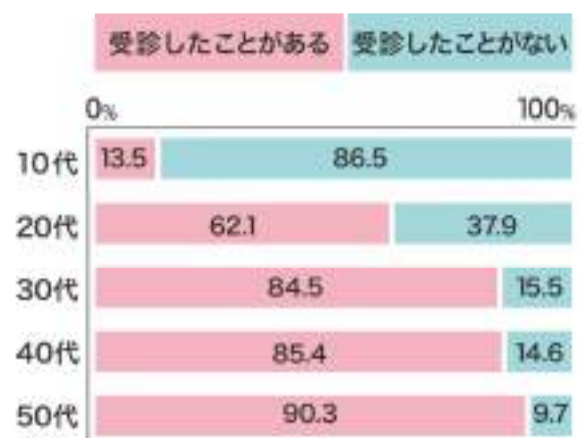
婦人科受診の受診率について、
20代では約6割にとどまり、
30代以上で8割を超える

これまでに、婦人科を受診した経験がありますか？ (n=516)

全 体



年 代 別



婦人科のイメージ

「行きづらい/抵抗感がある」が約6割

婦人科にどのようなイメージを持っていますか？



7

婦人科を受診した理由

「婦人科検診」「妊娠出産」が5割台で上位

婦人科を受診した理由はなんですか？ (n=346) ※複数回答



8

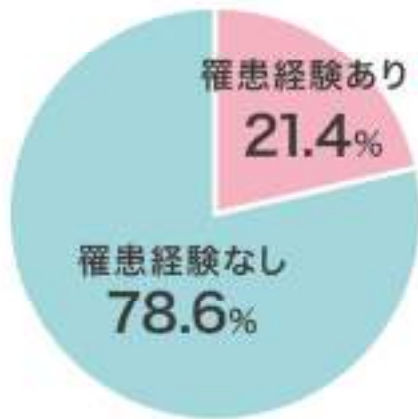
婦人科疾患の罹患経験

「子宮筋腫」「月経困難症」「子宮内膜症」など

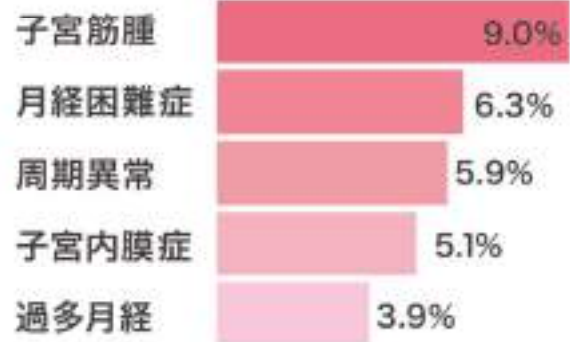
これまでに婦人科疾患にかかったことはありますか？ (n=510)

※複数回答

婦人科疾患罹患経験*



罹患経験（疾患別）



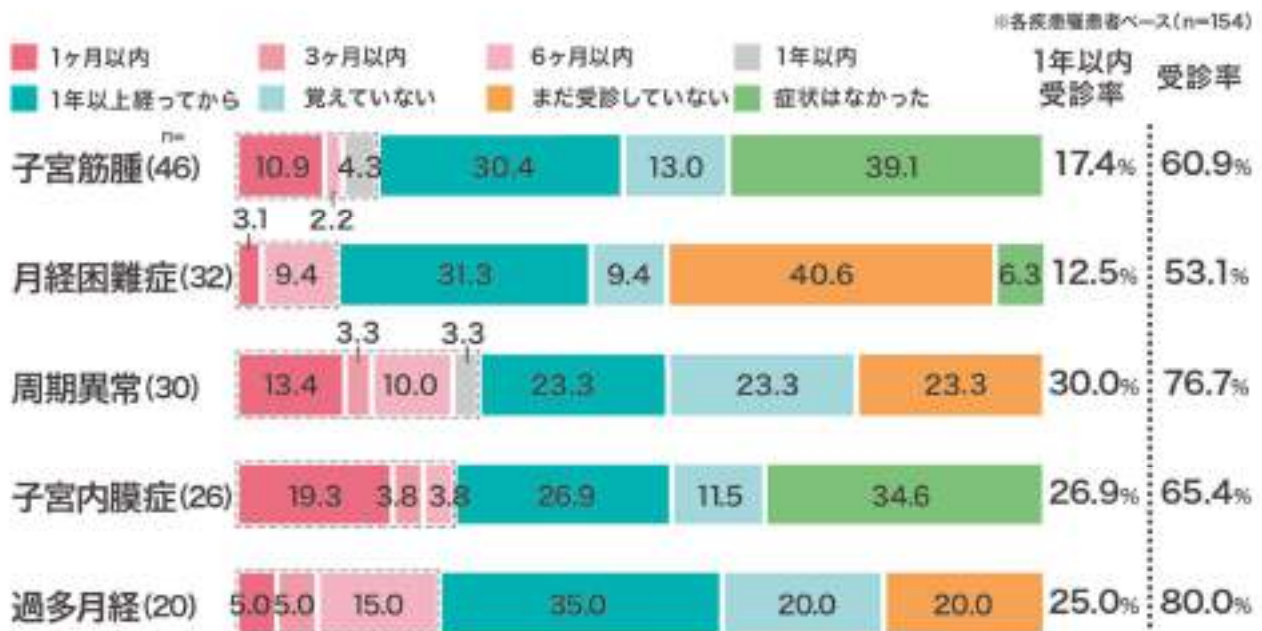
*婦人科疾患の罹患経験は、子宮筋腫/月経困難症/周期異常/子宮内膜症/過多月経のいずれかに罹患した女性

※いずれかの疾患を認知していた女性(n=510)

一般女性を対象とした婦人科疾患・ヘルスケアに関する認知実態調査 (バイエル薬品株式会社 2015年12月)

婦人科疾患別受診のタイミング
各疾患の受診率5～8割、「月経困難症」が最も低い

婦人科疾患別 受診のタイミング



※1本調査レポートの百分率表示は小数点第2位で四捨五入のため計算を行っているため、合計しても100%と異なる場合があります。

婦人科疾患による日常生活への影響 「過多月経」「月経困難症」が9割を超える

婦人科疾患*にかかって、
日常生活にどの程度影響がありましたか？

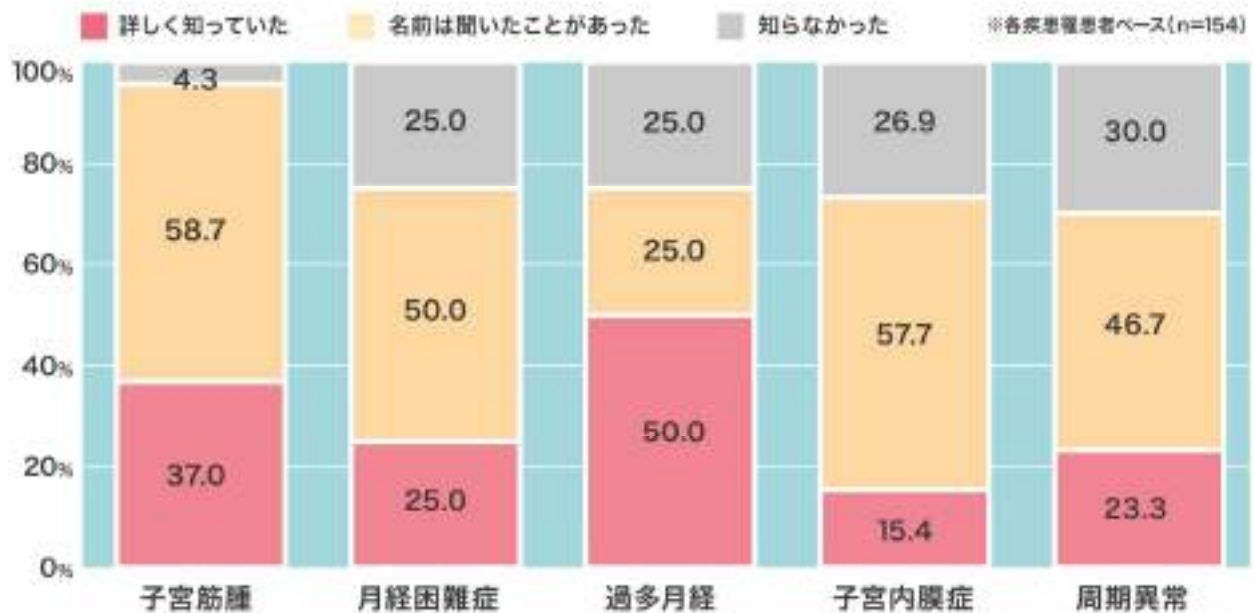


11

※ 婦人科疾患（子宮筋腫/月経困難症/周期異常/子宮内膜症/過多月経）
一般女性を対象とした婦人科疾患・ヘルスケアに関する認知実態調査（バイエル薬品株式会社 2015年12月）

婦人科疾患の認知

診断される前から詳しく知っていた女性2～5割
婦人科疾患*にかかる以前に、
これらの疾患を知っていましたか？



12

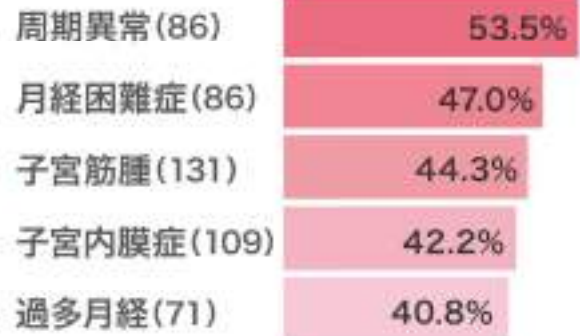
※ 婦人科疾患（子宮筋腫/月経困難症/周期異常/子宮内膜症/過多月経）
一般女性を対象とした婦人科疾患・ヘルスケアに関する認知実態調査（バイエル薬品株式会社 2015年12月）

婦人科疾患について詳しく知っている女性 半数が「よかったことがある」と回答

※婦人科疾患にかかる前 または 現在、いずれかの疾患を詳しく知っている女性 (n=128)

詳しく知っている
メリット有無

疾患別
メリット有無*



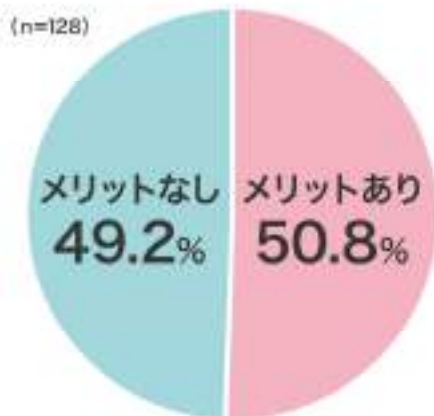
*罹患前は詳細認知していなかったが、現在詳細認知している女性も含むため、n=128を超える場合がある。

婦人科疾患について詳しく知っている女性 半数が「よかったことがある」と回答

※婦人科疾患にかかる前 または 現在、いずれかの疾患を詳しく知っている女性 (n=128)

詳しく知っている
メリット有無

具体的なエピソード



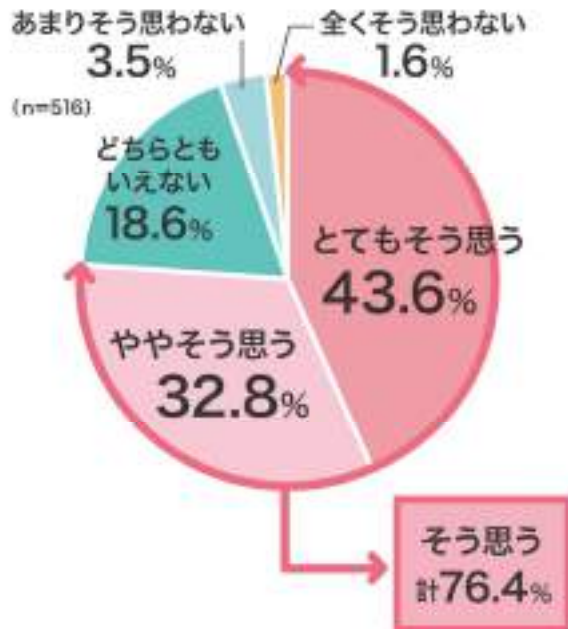
PMSなど、なにかの病気かと悩んだときに、月経困難症とは別物だと即時に判断でき、安心だったから。(月経困難症/27才)

不妊治療をしなければ子供ができないと分かっていたので、そのための準備ができた。(周期異常/31才)

子宮筋腫による過多月経になってしまったので、調べて詳しくなった。自分の状態を把握でき、自分で治療方法を選択することができた。(子宮筋腫/55才)

女性特有の疾患やヘルスケアに関する 早期理解のニーズは高い

中・高校生の年代で詳しく理解しておいたほうが
よかったですか？



具体的な理由

自分の体調に不安を感じたときに、学生時代に受けた授業のことを思い出したことが受診のきっかけになるから。(27才)

自分の体にとって大事なことだし、知っていれば予防したり症状が軽いうちに受診できたり、対策できるから。(18才)

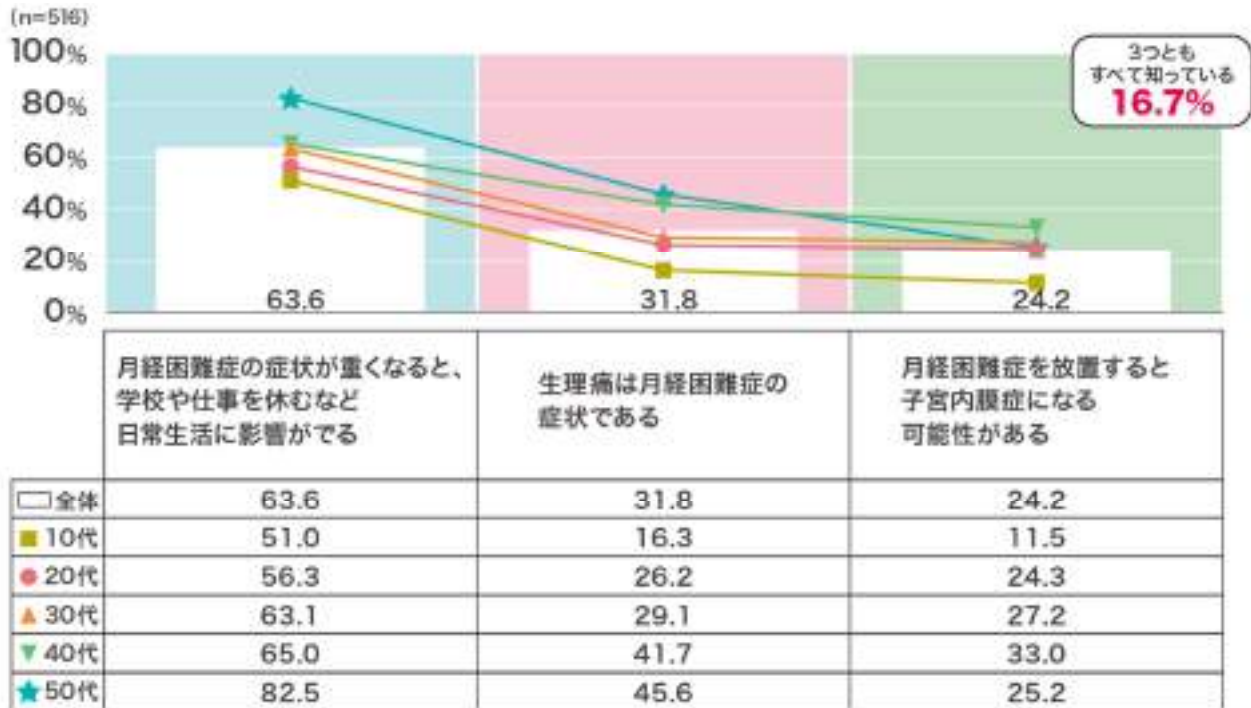
大人になると働いてたりして時間がなかなかない。早いうちから気にしていた方が早期発見につながりそう。(25才)

**婦人科疾患
ヘルスケアに関する
認知について**

月経困難症に関する知識

「子宮内膜症」の進行リスクの認知は24.2%

月経困難症に関して、これらの内容をご存知でしたか？



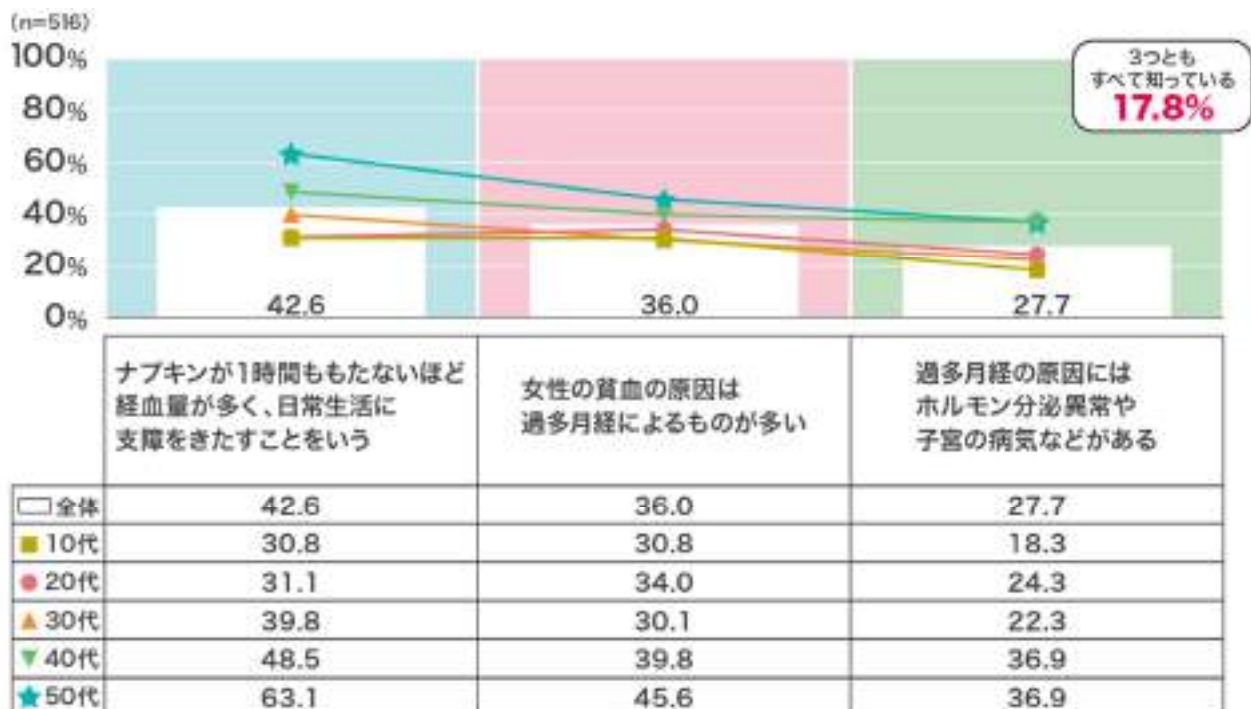
17

一般女性を対象とした婦人科疾患・ヘルスケアに関する認知実態調査（バイエル薬品株式会社 2015年12月）

過多月経に関する知識

原因となる婦人科疾患に関する認知は27.7%

過多月経に関して、これらの内容をご存知でしたか？



18

一般女性を対象とした婦人科疾患・ヘルスケアに関する認知実態調査（バイエル薬品株式会社 2015年12月）

子宮内膜症に関する知識

不妊症や卵巣がんのリスクに関する認知は34.7%

子宮内膜症に関して、これらの内容をご存知でしたか？



19

一般女性を対象とした婦人科疾患・ヘルスケアに関する認知実態調査 (バイエル薬品株式会社 2015年12月)

子宮筋腫に関する知識

50代では6割以上、若年層との差が大きい

子宮筋腫に関して、これらの内容をご存知でしたか？

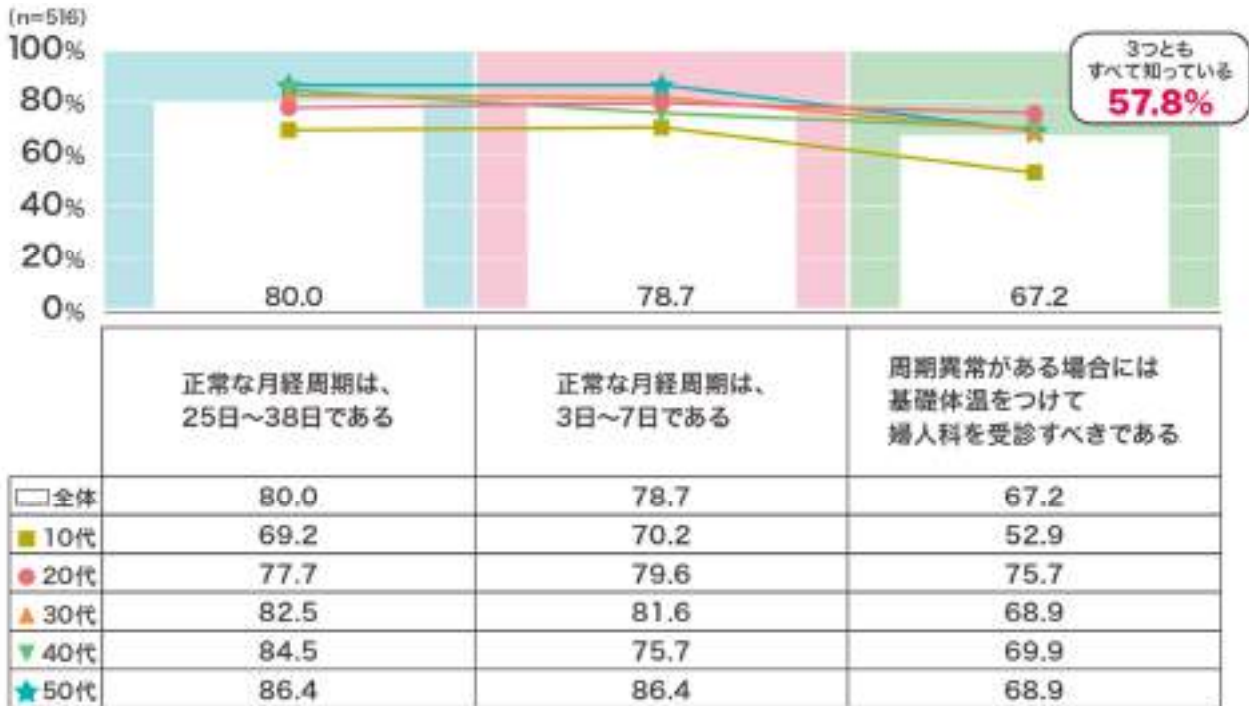


20

一般女性を対象とした婦人科疾患・ヘルスケアに関する認知実態調査 (バイエル薬品株式会社 2015年12月)

周期異常に関する知識 月経周期に関する認知は7～8割

周期異常に関して、これらの内容をご存知でしたか？



21

一般女性を対象とした婦人科疾患・ヘルスケアに関する認知実態調査（バイエル薬品株式会社 2015年12月）

女性の健康・ヘルスケアに関する認知について 「わからない」と回答する女性が多い

「生理がある間、妊娠力は維持できる」▶ 誤っていると正しく答えた女性は**45.7%**

「出産すると体質が変わり、生理痛がなおる」▶ 誤っていると正しく答えた女性は**38.4%**

「閉経後も排卵することがある」▶ 誤っていると正しく答えた女性は**23.6%**



注) 本調査レポートの百分率表示は小数点第2位で四捨五入のため計算を行っているため、合計しても100%にならない場合があります。

22

一般女性を対象とした婦人科疾患・ヘルスケアに関する認知実態調査（バイエル薬品株式会社 2015年12月）

女性の健康・ヘルスケアに関する認識について 全体の正答率は2～6割、10代で低い傾向

10代女性の正答率（誤っていると回答した割合）は、各年代の中でも低い傾向。
「カンジタなどの膣炎は生理がくると治る(34.6%)」、「生理がある間、妊娠力は維持できる(28.8%)」、
「出産すると体質が変わり、生理痛がなおる(29.8%)」など。

